

建築生産 Construction Management

担当： 瀧口信二

建築学科・3年後期・必須・2単位・専門応用科目（生産）

テキスト： 松村秀一編著「建築生産」（市ヶ谷出版社）

参考書： 建築倫理用教材（日本建築学会）

関連科目： 建築構法、建築施工、施工管理、建築法規、建築実務全般

授業科目と学科教育目標との関連

学科の学習教育目標	専門家の良識に基づく建築生産に対する倫理観の育成 建築生産における管理プロセスの基礎的理解能力の育成		
細目（科目グループ）	建築的行動と倫理並びに建築生産システムを理解する		
授業の目標	建築生産プロセスの総合的な関連性及び建築生産におけるマネジメント技術の基礎的知識について取り上げる。また、我が国の建築生産の現状と問題点を把握し、健全な建築生産を再構築するための建築倫理等について理解を深める。		
週	授業内容	学習・教育目標	評価方法
1	授業デザインの説明と建築生産の現状	授業の意義・目的や到達目標・評価方法並びに我が国の建築生産の変遷と建設市場の特徴について理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標を提示する。⇒問題形式で100問を示す。 中間テストで10問を選択し出題する。必ず各週での授業内容を出題する。 毎週、講義カードを配布し、関心事項と理解度を把握する。次週に必ず質問事項等を解説する。 課題認識能力を評価するため私的意見の文章化を要求し評価する。 合格基準は50%以上
2	建築生産システムの概論	建築生産のプロセスと仕組み、特に、その主体と役割・業務内容について理解できる。	
3	建築生産システムの各論	建築生産プロセスにおける川上の企画、実施の設計・入札・施工、川下の維持保全の各段階の業務について理解できる。	
4	建築マネジメント技術の手法	時代の要請に対応した建築マネジメント技術の体系と具体的な手法、CM・PM・FM等について理解できる。	
5	多様な入札契約方式	時代の要請に対応した総合評価・デザインビルド・VE・CM・PFI・ESCO等、新たな調達方式について理解できる。	
6	建物のライフサイクルと維持保全	建築のフローとストック及び建物の維持保全の体系について理解できる。	
7	中間テスト	1～6週までの建築生産システム等の問題について出題	
8	建築生産の今日的課題	時代の要請に対応した建築生産における地球環境問題、国際化、IT化社会等の動きについて理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 期末テストで100問中、10問を選択し出題する。必ず各週（8～14週）での授業内容を出題する。 毎週、講義カードを配布し、関心事項と理解度を把握する。次週に必ず質問事項等を解説する。 課題認識能力を評価するために私的意見の文章化を要求し、評価する。 合格基準は50%以上 総合評価は、中間テストと期末テストの平均値が、60%以上を合格とする。
9	建築専門家の業務の現状	建築家・構造技術者・設備技術者等の建築に関わる職能の法的根拠と実態並びに最近の動向について理解できる。	
10	建築生産に関わる法と制度	建築生産に関わるPL法、住宅品確法、公共工事品確法、ISO等の動きについて理解できる。	
11	建築工事のクレーム・事故等の対応	工事の欠陥問題等に対する対応と現行の法制度との関係について理解できる。	
12	建築倫理に関わる諸問題	構造設計偽装問題等、最近のトラブル事例について建築生産システムの視点から共に考える。	
13	建築実務と建築倫理	建築専門家に求められる倫理について建築士法、建築基準法、民法等、法令の視点から共に考える。	
14	これからの建築倫理の展望	地球環境対策、談合、ダンピング等、建設業界が抱える問題について理解し、よい建築とは何かを共に考える。	
15	期末テスト	8～14週までの建築倫理等の問題について出題	
16	支援テスト	不合格者が20%を超えた場合に実施する。中間テストと期末テストの不合格者を対象に、どちらかのテストを受けることができる。どちらかのテストと支援テストの平均値が60%以上の場合は合格とする。	